

第3学年1組 学年プロジェクト

活動内容・発問検討のために、活動の目的を深く考える

—清掃活動を通して、学校への感謝を小学生と共に考える—

赤澤 聡美

修学旅行で感じた「家族のような温かさ」や「人と人とのつながり」を、安居地区の方々にも感じてほしい、自分たちがその架け橋になりたいと考え、3年生の学年プロジェクトが始動した。「小学校と中学校」を担当したグループは、掃除を通して安居小学校への感謝を伝え、小学生へ伝統を引き継ぎたいと考え企画した。最初は、掃除をする方法・場所など方法についての話し合いが多かった。しかし、この活動をする目的や掃除を通して何を小学生と一緒に考えたいのかを改めて企画者のメンバーで、そして学年全体で話し合うことで深めることができた。そこから、どのように小学生に問いかけるとその思いに自分自身で気付くことができるかを、何度も話し合いながら考えていった。

1. はじめに

例年、3年生は修学旅行で関東地方へ赴き、企業訪問や都内班別活動などを行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、福井県小浜市へ1泊2日の修学旅行となった。2日間の様々な活動を通して、生徒達の心に一番残っていることは、「阿納の方々の温かさ」や「人と人とのつながり」であった。地区の方々が私たちを家族のように迎え入れてくださり、その「家族のような温かさ」をこの安居地区の方々にも感じてもらいたい、自分達はその架け橋になりたい、と考え、「Bridge～おかえりなさい安居～プロジェクト」が始まった。



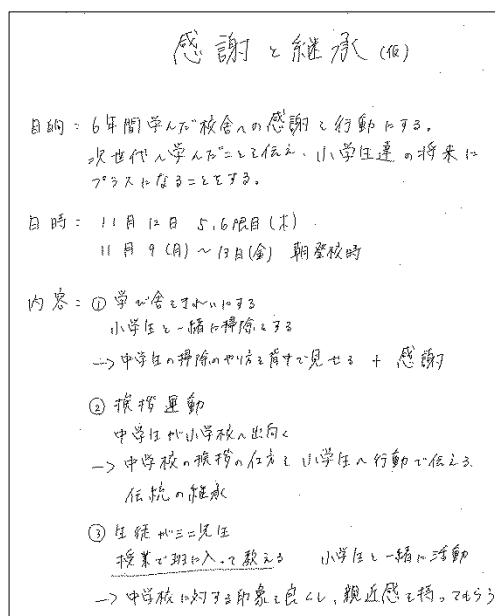
私たちが温かく迎えて下さった阿納の方々

生徒の中から出てきた「つながり」には、「小学校と中学校」「安居地区と私たち」「安居地区の方々と私たち」「他地区と安居地区」の4つが挙がった。その中で「小学校と中学校」を担当することになった彼ら3人は、中学校卒業を控え、改めて6年間お世話になった小学校に恩返しをしたい、また、中学校3年間で学んできたことを小学校に還元し、小学生のプラスになるような取組をしたいと考え企画していった。

2. 学びの実際

(1) 企画の練り直し

最初に、企画者3名の生徒から、この活動の目的や内容について説明してもらった。



初期の原案

生徒から説明を聞いた中で、②③について、以下のような疑問がわいた。

②挨拶運動・・・突然始まった挨拶運動で挨拶の大切さについてどう伝えるのか。また、その活動を終えたとき、小学生にとっても、中学生にとっても何が残るのか。

③生徒がミニ先生・・・行方目的にある「中学校に対する印象をよくなり、親近感をもってもらいたい」の部分が、活動全体の目的とどう結びつくのか。

生徒に質問したところ、生徒たちの中でもその

活動をする目的や意義について疑問を持ち始めた。

そこで、全体の目的である「学んだこと」「安居中学校の伝統」とは何かを再度検討した。その際に

- ・校門などでの礼
- ・掃除

が挙げられた。そこで、安居中学校で培った掃除に対する姿勢について、小学校の校舎を小学生と中学生が一緒に掃除することによって伝える、という活動を行うこととなった。

(2) 小学校訪問後の話し合い

掃除について取り組むということで、1学期の環境委員長・副委員長もメンバーに加わり、活動を進めていくこととなった。生徒たちは、どのような活動にしていくかを考える上で、一度小学生の掃除の様子やどの場所を掃除するとよいかを知る必要があると考え、小学校が掃除をしている時間に訪問させていただいた。その後、学校に戻り、小学校を訪問して分かったことをもとに、話し合った。

夏美：学習室とか物をどかさずして1人じゃ足りないよね。トイレの床の黒いところとれるかな？流しの鏡の下も。

幸太：4年教室に3グループか4グループ必要じゃない？結構床汚れてたよ。

夏美：それだと、掃除をする時間って20分じゃ短くない？

幸太：でも、小学校と中学校でスケジュールが違うからさあ…

どの場所を掃除した方がよいかや、掃除にかかる時間についてなどの話をしている途中で授業終了時間がきてしまい、話し合いが終了した。

(3) 活動を通して伝えたいことは何かを考える

その後の話し合いの時間でも、どこを掃除した方がよいかやどうやって掃除をするかなどの「掃除の方法」についての話し合いだけに留まり、この活動を通して、小学生に伝えたいことが何かという話に至らない。そこで、自分たちは日頃どういう思いで掃除をしているのかや、私たちは何を小学生に伝えたいのかを改めて確認した。

教員：なぜ掃除をするのか、そうじの意義は何だと思う？

幸太：きれいな状態だと気持ちがいいから。

掃除をすると心がすっきりする。

夏美：私は校舎への感謝だと思う。あとは、今は私たちが使っているけど、いつかは後輩たちが使うことになるから、後世のためとか。あと、自分が使った所ぐらい自分できれいにしないと…。

翔太：自分の家だったら、きれいにしておけばお客さんが来たときに、その人が気持ちいいかな、と思う。

また、2つめの目的である「次世代に学んだことを伝えたい」とあるが、中学生が「学んだこと」「伝えたいこと」とは何かを問う。すると、グループのリーダーである幸太さんが自分の掃除に対する思いの変化について話し始めた。

幸太：僕は小学校の時に、掃除ってなんでしないといけないの、面倒だなあと思っていた。でも、中学生になって、広い範囲を少ない人数で短い時間で掃除をしないといけないから、頑張って掃除をしていたら、いつの間にか面倒だとかそういうマイナスな気持ちはなくなっていた。だから、自分たちが小学生にそういう気持ちを伝えることによって、小学校の段階から掃除の大切さを理解しながら小学校を掃除できるし、そう思った子たちが中学校に入ってきてくれることによって、中学校の掃除もレベルアップするんじゃないかなと思って、そういうことを伝えたい。

掃除の意義についてグループで話し合いをしていく中で、メンバーから、「学年全体でも考えたい」という意見が出た。そこで、総合的な学習の時間に、学年全体に自分たちの思いを伝え、「なぜ掃除が大事だと思うか」、「小学生に何を伝えたいか」について質問した。3年生の中からは、

- ・使っている者として、気持ちがあればあるほどよりよい掃除になる。
- ・感謝の気持ちや愛校心
- ・安居小を好きになって、感謝すること

という意見が出た。出てきた意見を踏まえ、5人は掃除を通して学校への感謝を、小学生と一緒に考えていきたいと思うようになっていった。

今までは、掃除の場所・方法について考えていたが、今回の話し合いで、「何のためにこの活動をするのか」ということを再確認することができ、そこからどんな活動にしていくかを考えるきっかけ

けとすることができた。

(4) 発問を考える

掃除をする前のグループワークで、どのような発問をしたら、感謝の気持ちが大事ということに小学生に気付いてもらえるかということ考えた。

- 幸太：まず、「どんな気持ちで掃除をしていますか」かな。
掃除の意義…学校への感謝…どう聞き方したら、両方につながる？難しくない？
- 夏美：どんな気持ちで掃除しているか…面倒くさいとか？あとは掃除をすると気持ちいい？
- 幸太：小学生から感謝なんて出てくるかな？出てこなかったらどうやって感謝につなげたらいいんや…

幸太と夏美は、どのような発問をすると「学校への感謝」につながるのか悩んでいた。自分たちで考えていたが、なかなか決まらなかったため、再度学年に意見を求めた。その中で、

- 安居小学校のいいところや安居小学校での思い出を聞いたらいいのではないかな。
- 学校に通えることは当たり前ではない、通えていることに感謝、ということにつなげてはどうか。
- 校舎への感謝を伝えるために、どのような掃除をするかを一緒に考える。
- 学校への感謝が大事ということ、中学生が話してしまうとその考えを押しつけていることになる。学校への感謝という部分をひとまず置いておいて、安居小学校のいいところから入って、感謝をもつことの大切さに気付かせるような流れはどうか。

といった意見が挙がった。

これまでは、掃除に対する思いや意義についての直接的な質問しか考えられなかったが、学年のみんなや先生方の意見から、学校への感謝の気持ちを「押しつける」のではなく「気付かせる」ことが大事ということに気付くことができた。

これらの意見や事前打ち合わせで小学校の先生方からいただいたアドバイスをもとに、何度もメンバーで検討し、最終的に次のような展開で、小学生と一緒に話し合い、活動していくことに決めた。

○自己紹介・ミニゲーム

(その後の話し合いで素直な意見が出しやすいように仲を深める)

○掃除前の話し合い

- 発問1：日頃どんな思いで掃除をしているか。
(面倒、嫌いなどの本音を引き出す)
- 発問2：学校でどんなことをしている時が楽しいか。
→楽しく過ごせるのは校舎があるから。
- 発問3：そんな学校が汚かったらどう思うか。
→楽しく過ごすためには掃除が必要。
- 発問4：どんな気持ちで掃除をするといいか。
→その気持ちで掃除をしてみよう。

○実際に掃除をする

○振り返り

- 発問5：活動前に考えた気持ちで掃除をしてみようだったか。

(5) 活動を終えて振り返り

当日、自分たちが考えてきた内容で、小学生と話し合いや清掃活動を行った。掃除前の話し合いの最中に、幸太は「この発問でよかったのだろうか。もう少し違う聞き方がよかったかもしれない。」とつぶやく場面もあった。しかし、実際に掃除をしてみると、「一生懸命取り組んだことで、いつもより長い時間掃除をしたのに、短く感じた。時間が足りなかった。」「きれいになって気持ちよかった」などの声が聞かれ、小学生・中学生共に達成感を味わえた様子だった。



グループワークの様子



掃除をしている様子

活動後、小学生から以下のような感想が得られた。

<小学生の感想>

- ・掃除に対する気持ちが変わりました。夏美さんは掃除をしているときも前向きで、掃除が楽しく感じました。面倒くさい、嫌だと思うより、楽しい、頑張ろうと前向きに校舎をきれいにし、感謝を伝えたいです。これからも、掃除を班長として手本になるように頑張りたいです。
- ・最初は「面倒くさい」「時間もったいない」などの思いが強かったけど、幸太さんの話を聞いて、確かに廊下が汚かったら歩きたくないと思うから、掃除をすることで自分も他のみんなも、心が気持ちよくなると思うので、あと少しの小学校生活の掃除を必死に頑張ろうと思いました。

これらの感想を読み、また、これまでの計画や話し合いを振り返り、メンバーから以下のような感想や反省が挙がった。

<班のメンバーの感想・反省>

- ・今回の活動を通して学校への感謝について考えてほしいと思って、どう問いかけるといいか考えてきた。実際にやってみて、こんなことに気付いてほしいということにたくさんの小学生が気付いてくれてよかった。
- ・自分たちだけではなかなか気付けなかったけど、学年のみんなに意見をもらったことで新たな考えを得られたり、それが話し合いを進めていく上で重要なポイントにもなったりしたから、学年全員で話を共有してよかった。
- ・計画を立て始めてから、実際に小学校に行く日までの期間が短かった。もう少し時間があれば、より深めて考えることができた。
- ・初めはどこを掃除するかなどの話し合いをしていたが、もっと序盤から、なぜこの活動をするのかや何を伝えたいのかという話を深めていくとよかった。
- ・今回は掃除についてだったが、活動内容が何であろうと目的をしっかり考えることが大事だと思った。

短い期間での計画・準備であったが、自分たちが伝えなかった思いが小学生に伝わったと全員が感じていた。また、今回の活動を通して、「活動の目的」を考えることの重要性を感じることができたようである。

3. 実践を振り返って

最初は、方法論の話し合いがほとんどだったが、改めて「なぜ今回の活動を行うのか」という原点に立ち返ったことで、自分たちが何を小学生に伝えたいのかを深く考え、そのためにどのような活動をしていくとよいかを考えることにつながった。実際に、どのような発問にするか当日まで何度も話し合いを重ねてきたが、毎回、「ゴールは何か」「最終的に何を伝えたいのか」という言葉が生徒の中から出てきていた。どのような活動でも、その根底となる「何のために行うのか」をしっかりと考えることが重要であることに気付くことができたのではないかと考える。

しかし、「活動の目的について考えることの大切さ」について、生徒の中から出てきたものではなく、教員が誘導し、気付かせた部分が多い。どのような関わり・問いかけをしていくと、生徒自身が気付き、考えていくことができるのか今後の課題である。

また、生徒からの感想にあった、「計画し考える時間が短かった」ことも反省点である。修学旅行終了からの企画となり、実際に小学校で清掃活動を実施したのは修学旅行からちょうど1ヶ月後であった。その1ヶ月の間に学年プロジェクトの計画を練ることができる時間は少なかったように思える。時間が足りない部分は朝の時間や昼休み等の時間を利用してしたが、準備期間中に大事なテストがあったこともあり、勉強との両立を考えると厳しかったようである。今後は、プロジェクト学習を生徒主体で計画・実施していくためにはどの程度の時間がかかるかを考えながら日程を設定したり、いつまでにこれを考えるなど綿密な計画を立てて進めていったりする必要があると考える。